

## 視野が広がった ボランティア活動

ふじもと だい き  
**藤本 大樹** さん

北海道医療大学のリハビリテーション科学部理学療法学科3年生で学生ボランティアネットワークの共同代表を務める藤本さんに今年の「福祉まつりふれあい広場」についてお話を聞きました。



### 学生ボランティアネットワークとは

**僕は**1年生から所属していて、ナイトパークや商工会青年部の花火大会、当別小の児童を対象とするわくわくキッズ、医療大学が実施するオープンカレッジなど、さまざまなイベントや行事のお手伝いをさせていただいています。先日「アクティブチャレンジ2017in手稲山」という事業に参加してきました。この事業は全ての参加者が障がいの有無に関係なく、対等な立場で関わり合いながら、それぞれができること、やるべきことを考え実践し、共通の目標にベストを尽くすという事業です。この日は車いす使用者を含む障がい児者と共に手稲山の山頂を目指して一緒に登山をしました。この事業での他団体の方との交流や多くの体験で得たことは、これからの人生に大きく役に立つと思います。

### 福祉まつりへの思い

**ボラ**ンティアネットワークの活動で大きな事業としては「福祉まつりふれあい広場」があります。今年は9月2日(土)に開催予定で、僕は福祉

まつりの事業企画部を担当し、屋内外でのイベント関係をまとめる役を担っています。1年生の時は開催日当日に行けず、当日への参加は今年で2回目。来年は実習授業が入ってくるので、参加できません。今年の実行委員会は立ち上がったばかりで、具体的な内容はこれからですが、当別町民の主張・劇・クイズ大会・子ども企画の「スノードーム作り」と「木の工作」は決定しています。昨年の大声コンテストは「感謝の言葉」をテーマに大声で叫ぶものでしたが、今年は「町民の主張」として、叫ぶ言葉も含めて出場者の募集をかけます。



昨年の大声コンテストでデモンストレーションを行う藤本さん

ポジティブな言葉が多く集まってくれる事を期待しています。昨年やっていて、障がい者も健常者も関係なく、最後に「ヨッチョレ」

を踊り、会場全体が盛り上がるのはとても良い終わり方だと思いました。

### 今後の福祉まつり

**まつり**を継続させるためには、町内だけではなく近隣の市町村からも来ていただけるようなものにできたら良いと思います。当日に来て楽しむだけではなく、企画段階から地域と一緒にイベントを作っていくのが理想なんだろうなと思っています。今年も多くの方が来て、楽しんでもらえるようなお祭りを開催できるように頑張ります。

北海道医療大学の学生ボランティアネットワークに所属し、さまざまな経験をしたことで、視野を広げることができ、入学した事を誇りに思うと話してくれました。今後は社会福祉士の勉強もしたいと積極的に福祉事業に携わる意欲がみなぎっていました。

(7月19日取材)